

令和7年度 第2回 羽曳野市地域福祉推進委員会・羽曳野市地域福祉活動計画推進委員会
(議事要旨)

日程

令和7年9月24日(水) 14時00分～15時45分

会場

羽曳野市役所 別館3階 会議室

出席委員

新崎委員、吉田委員、酒井委員、外園委員、田仲委員、堀脇委員、齋藤委員、木村委員、
音川委員、上田委員、上間委員、風呂谷委員、村本委員、新見委員、猪砂委員、麻野委員、
中野委員、松下委員、奥野委員、杉本委員、南里委員、宮井委員、梅本委員、秋田委員、
小池委員、浦田委員、尼丁委員、

次第

1. 開会
2. 羽曳野市地域福祉推進委員会 委員長・副委員長選出
3. 委員長挨拶
4. 住民懇談会実施報告
5. 計画策定にかかる各種アンケート調査結果の報告
 - ・市民アンケート調査
 - ・専門職ネットワークに関するアンケート調査
 - ・校区福祉委員アンケート調査
 - ・団体アンケート調査
6. 第5期羽曳野市地域福祉計画・地域福祉活動計画の骨子案について
7. その他
8. 閉会

議事要録

1. 開会

2. 羽曳野市地域福祉推進委員会 委員長・副委員長選出

市事務局から、新崎委員を委員長、吉田委員を副委員長とする提案があり、拍手により承認

3. 委員長挨拶

4. 住民懇談会実施報告

住民懇談会について社会福祉協議会より報告

(委員長)

- ・できるだけいろいろな方々、PTA、福祉施設の方、NPOの方など、顔の見える関係がなかなかできない方を意図的にそれぞれの地区で集めて、ワールドカフェという形式でぎくばらんにお茶を飲みながら問題を解決したり、その中でつながりを作っていく。PTAの方が地域のNPOの方と協力してやっていくなど、計画づくりのためだけではなく、住民懇談会がつながりづくりの場として、地区の個性が出た会議だった。

5. 計画策定にかかる各種アンケート調査結果の報告

7月に実施された地域福祉に関するアンケート調査結果について、事務局（羽曳野市・社会福祉協議会）及び計画策定支援業務委託事業者より報告

(委員長)

- ・CSWの認知度について、アウトリーチを含み、積極的に地域の方と一緒に包括的な支援を行っていくCSWの認知度がやや低い。しかし、専門職のアンケートでは6割が知っており、相談したいと思う人も3割に増えている。団体を対象にCSWについて聞いたところ半分以上が認知している。一般住民の認知度は低いが、専門職や地域活動に取り組んでいる人には役割が知られているという報告を、長年計画にかかわるものとして、経年の変化として理解いただければと思う。

(委員)

- ・民生委員・児童委員、社会福祉協議会以外に知っている人があまりいない。なぜ知られていないのか。

(計画策定支援業務委託事業者)

- ・様々な自治体で調査をしていると、民生委員・児童委員の認知度が63%もあるというのはかなり高い数字であるように見え、羽曳野市の民生委員・児童委員はかなり地域で認知されているのではと思われる。それ以外については、やはり高齢者に関する相談については高齢者の回答が多い、こどもに関するところは子育て世代が多い、といった形で、自分の生活や困

りごとに直接かかわるところは知っているが、関わりにくいところは知らないことが多いというのが一般的な状態としてあると思われる。

(委員長)

- ・福祉に対して関心がない方については、なかなか民生委員・児童委員や社会福祉協議会について知らない人が多い。しかし、他市に比べるとまだ高い方だということでご理解いただければと思う。

(事務局：社会福祉協議会)

アンケートについて補足説明

- ・第5期活動計画では、初めて校区別の計画を策定することになった。5年後の校区の目標を設定し、福祉委員会活動の指針にすることで、各校区の特色ある活動につながっていく。今回のアンケートや校区福祉委員アンケートの結果については、校区別計画策定の基礎資料として活用できるよう、校区ごとの集計資料を作成し、協議やヒアリングで準備させていただく予定。

6. 第5期羽曳野市地域福祉計画・地域福祉活動計画の骨子案について

第5期羽曳野市地域福祉計画・地域福祉活動計画の骨子案について、事務局（羽曳野市・社会福祉協議会）及び計画策定支援業務委託事業者より説明

(委員長)

- ・国の課題であったり施策を網羅していく。4章の地域福祉計画は行政の計画であるため、様々な課題や現在の問題について網羅していく。第5章の地域福祉活動計画については、少し柔らかく、住民と専門職の方々が一緒に取り組みやすい表現で書いている。今後は、校区の福祉委員の皆さんと一緒に、それぞれの地域の中で課題について考えていくと聞いている。

(委員)

- ・骨子案をみて、非常にチャレンジングで期待の持てる実施重点目標だと思っている。この5年間の目標を考えるにあたり、一つ考えていただきたいのが、地域の担い手づくりを、重く押し込めていただきたい。この5年間で大きく世代も変わり、担い手も大きく変わっていくと思う。その意味で、地域に降りていくプロジェクトをする中で、新しい担い手づくりを達成してもらいたい。
- ・羽曳野市は、旧村の担当の方が地域の役員をされていて、その方々が市がしたことを落とし込んで取り組んでこられた。次の時代になり、営農される方が減り、会社勤めされていた方が定年となって地域の担い手になってきた。その方々が高齢化し、地域活動ができなくなっているのが今の羽曳野の現状だと思う。今や定年も長くなり、70歳まで現役の方が多く、地域の役員のなり手がいない現状。次の担い手も厳しいので、いろんなNPO団体や新しい地域の活動家の方にどうやって入ってもらえるかということを目標として考えて、次の5年間で有意義なものにしてもらいたい。

(副委員長)

- ・1年の行事をこなすのでやっとなので、5年先を考えるのは難しいという思いもあるが、市が5年でやっているのだから、地域のほうも5年で合わせ、地域福祉計画と活動計画を合致させていい計画にしなければと改めて考えている。各校区で素晴らしい活動をされているので、各校区の計画を出していただき、他の校区の参考になればと思う。
- ・難しい問題はもちろんある。担い手づくりもそうだが、支援の対象が増えていく中でできるだけ負担をかけず、楽しんで活動を続けて5年間乗り切れる計画にしていただければと思う。

(副委員長)

- ・それぞれの地域でこんな風に頑張っている、こんな活動をこれからもしていきたいといった前向きな声を聴いたり、どんなものを一緒に作るかを描けるような計画にしていだきたいと思う。
- ・アンケートでも地域福祉の様々な課題が出ていて、意識の定着をどうしていこうかといったこともあり、課題に注目しがちではあるのですが、一方でこんな風に描きたい、地域を作りたいという仲間を増やしていけるような計画になればと思う。そのためには、今活動されている方へのお願いをかぶせるのではなく、いろんな方の出番を作っていけたらと感じている。

(委員長)

- ・羽曳野には「ふれあいネット雅び」という小学校区で専門職と地域の福祉委員、民生委員・児童委員、住民の方で話して問題解決していこうというプラットフォームがある。他のところでは、1層で市域、2層で中学校区、3層ではじめて小学校区というように、上から降ろしてくる計画が当たり前だが、「ふれあいネット雅び」というのは小学校区でそれぞれの特性に合わせた問題を考えていこうというもの。「ふれあいネット雅び」がこの5年間でかなり認知度が上がったというのは、地域の力、行政の力だと思う。
- ・もう一つは専門職ネットワーク。これも他のところでは聞かれない。重層的支援体制整備事業の多機関協働を羽曳野は十数年前から先駆けて取り組んできたという宝物がある。その宝物をどのように変えていくのかが大事。
- ・不登校の子ども、PTAの方々、いろんな課題を抱えているNPOの方々に話し合っていたら顔の見える関係を作っていく。計画策定のためには皆さんの力が必要。今後、各校区の福祉計画の中で、地域の自慢や強み、課題をお話いただく中で、より良い計画を一緒に立てさせていだければと思う。

7. その他

(羽曳野市保健福祉部長)

閉会の挨拶

8. 閉会